

研究大学コンソーシアム の活動について 2018

研究大学コンソーシアム全体会議議長
山本 進一

研究大学コンソーシアムとは？

研究大学コンソーシアム（RUC:Research University Consortium）の概要

- 発足：平成29年8月4日
- 構成：研究力強化に積極的に取り組む大学の研究担当理事または副学長の集まりとして組織。現在は33機関で構成。
- 目的：研究力強化に取り組む大学及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）がコンソーシアムを形成し、**各大学等における先導的取組や課題の発信・共有によりネットワーク化を推進**するとともに、それら取組の**全国的な普及・定着**を目的とする。
（「研究大学コンソーシアム規約」（平成29年8月4日 研究大学コンソーシアム全体会議）より）
- 活動：
 - ・ 会議体での好事例の共有
 - ・ **HPやシンポジウム**を活用した情報発信・共有
 - ・ 各大学等における共通の課題等をテーマとして、**タスクフォース**を設置し、必要に応じ文部科学省の関係部局も交えるなどして、俯瞰的に討議

研究大学コンソーシアム構成機関

1	北海道大学	18	大阪大学
2	東北大学	19	神戸大学
3	筑波大学	20	岡山大学
4	千葉大学	21	広島大学
5	東京大学	22	山口大学
6	東京医科歯科大学	23	九州大学
7	東京農工大学	24	九州工業大学
8	東京工業大学	25	熊本大学
9	電気通信大学	26	奈良先端科学技術大学院大学
10	新潟大学	27	首都大学東京
11	金沢大学	28	早稲田大学
12	福井大学	29	慶應義塾大学
13	信州大学	30	東京女子医科大学
14	名古屋大学	31	自然科学研究機構
15	名古屋工業大学	32	高エネルギー加速器研究機構
16	豊橋技術科学大学	33	情報・システム研究機構
17	京都大学		

研究大学コンソーシアム 概要

全体会議

幹事機関

自然科学
研究機構

HPによる情
報発信

研究大学コン
ソーシアム
シンポジウム

運営委員会
(アドバイザー
リーボード)

タスクフォース

高度専門人材・
研究環境支援人材

研究力分析

国際情報発信

提言 など

WPIアカデミー
との連携 など

※幹事機関を自然科学研究機構が担い世話役を務めるとともに、議論に際しては継続的な議論を行うようにつとめる。
※自然科学研究機構による運営にアドバイスをするアドバイザーリーボードとして運営委員会を設置。

研究大学コンソーシアムの活動 全体会議(1)

○第1回

- 日 時:平成29年8月4日(金) 15:00~17:00
- 場 所:KKRホテル東京 11階 孔雀の間(東京都千代田区大手町1-4-1)
- 議題及び審議結果等:

- 研究大学コンソーシアム規約の制定

- 全体会議議長の選任(山本進一 自然科学研究機構客員教授を選任)

- 運営委員会構成機関の選出

- タスクフォースの設置承認、及び運用に係る詳細事項を運営委員会に付託

- ・高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するTF
- ・研究分析指標・IR等共通する課題に関するTF
- ・国際情報発信に関するTF

- ホームページの運用・シンポジウムの開催に係る骨子の承認、及び詳細事項を運営委員会に付託

- 「大学研究力強化ネットワーク」構成機関の「研究大学コンソーシアム」への参加の承認



○第2回

- 日 時:平成30年3月28日(水) 14:30~16:30
- 場 所:ホテルニューオータニ「翠鳳の間」(東京都千代田区紀尾井町4-1)
- 議題(案):

- 平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画について

- 研究大学コンソーシアムの構成機関について

- リサーチ・アドミニストレーター活動の強化に関する検討会について

- 研究大学コンソーシアムの英語名、略称及びロゴについて

- タスクフォースの名称変更について

新聞記事

構想案を説明する幹事機関の自然科学研究機構



挨拶する小森幹事機関
研究助成部長



文部科学省「研究大学強化促進事業」の採択機関(22の国立大学・大学共同利用機関)が、第1回の全体会議を8月4日にKKRホテル東京(東京都千代田区)で開催した。

同コンソーシアムは、研究大学強化促進事業の取組や課題の発信・共有によりネットワーク化を推進するとともに、それらの取組の全国的な普及・定着を目指すもの。幹事機関を大学共同利用機関法人自然科学研究機構が担当している。

同会議では冒頭、自然科学研究機構の小森彰夫機構長による挨拶後、文部科学省研究助成課の小村昭徳課長が挨拶。研究大学強化促進事業の政策動向や研究大学強化促進事業の方向性、同コンソーシアムへの期待などが述べられた。

また、幹事機関である自然科学研究機構から、同コンソーシアムの構想案が説明され、規約の承認に続き、自然科学研究機構の山本進一客員教授が議長に選出された。

さらに、運営委員となる10機関を選定するとともに、具体的な活動として、「高度専門人材・研究環境支援人材の活用」、「研究力分析指標・IR」、「国際情報発信」など、各機関共通の課題について討議するタスクフォースの設置や、シンポジウムの開催、ホームページを活用した情報発信についても共同して取り組むことが承認された。

また、同コンソーシアムに、研究大学強化・研究支援機能の充実に取り組み、大学等で構成される「大学研究力強化ネットワーク」の参加大学が構成員として加わり、より幅広く情報の発信・共有などを推進するとの方針が了承された。

続いて、京都大学の今羽右左衛門氏から、大学等の研究力強化につながる取組の紹介として、世界への研究成果発信に関する議論が行われた。

最後に、各機関における研究力強化に係る現状と課題、同コンソーシアムへの期待などが示された。

今後、運営委員会での議論を経て、研究大学コンソーシアム・シンポジウムを12月上旬に開催する予定。



全体会議

22 国立大・共同利用機関で構成 「研究大学コンソーシアム」が第1回全体会議を開催



コンソーシアムの構想案を説明する自然科学研究機構(写真中央は小森彰夫機構長)

文部科学省「研究大学強化促進事業」の採択機関(22の国立大学・大学共同利用機関)が、第1回の全体会議を8月4日、KKRホテル東京(東京都千代田区)で第1回の全体会議を開催した。同コンソーシアムは、研究大学強化促進事業の取組や課題の発信・共有によりネットワーク化を推進するとともに、それらの取組の全国的な普及・定着を目指すもの。幹事機関を大学共同利用機関法人自然科学研究機構が担当している。

同会議では、冒頭、自然科学研究機構の小森彰夫機構長の挨拶の後、文部科学省研究助成課の小村昭徳課長が挨拶。研究大学強化促進事業の政策動向や研究大学強化促進事業の方向性、同コンソーシアムへの期待などが述べられた。

その後、幹事機関である自然科学研究機構から、同コンソーシアムの構想案の説明があり、規約の承認に続き、同機構の山本進一客員教授が議長に選出された。また、運営委員となる10機関を選定するとともに、具体的な活動として、「高度専門人材・研究環境支援人材の活用」、「研究力分析指標・IR」、「国際情報発信」など、各機関共通の課題について討議するタスクフォースの設置や、シンポジウムの開催、ホームページを活用した情報発信についても共同して取り組むことが承認された。

大学等22の機関で構成
研究大学コンソーシアムが第1回全体会議

文部科学省「研究大学強化促進事業」の採択機関(22の国立大学・大学共同利用機関)が、第1回の全体会議を8月4日、KKRホテル東京(東京都千代田区)で第1回の全体会議を開催した。同コンソーシアムは、研究大学強化促進事業の取組や課題の発信・共有によりネットワーク化を推進するとともに、それらの取組の全国的な普及・定着を目指すもの。幹事機関を大学共同利用機関法人自然科学研究機構が担当している。

同会議では、冒頭、自然科学研究機構の小森彰夫機構長の挨拶の後、文部科学省研究助成課の小村昭徳課長が挨拶。研究大学強化促進事業の政策動向や研究大学強化促進事業の方向性、同コンソーシアムへの期待などが述べられた。

その後、幹事機関である自然科学研究機構から、同コンソーシアムの構想案の説明があり、規約の承認に続き、同機構の山本進一客員教授が議長に選出された。また、運営委員となる10機関を選定するとともに、具体的な活動として、「高度専門人材・研究環境支援人材の活用」、「研究力分析指標・IR」、「国際情報発信」など、各機関共通の課題について討議するタスクフォースの設置や、シンポジウムの開催、ホームページを活用した情報発信についても共同して取り組むことが承認された。

最後に、各構成機関の出席者間で意見交換を行い、同コンソーシアムの形成に際して、各機関における研究力強化に係る現状と課題、同コンソーシアムへの期待などが示された。

今後、運営委員会における議論を経て、研究大学コンソーシアム・シンポジウムが12月上旬に開催される。

研究大学コンソーシアムの活動 運営委員会

運営委員会構成機関（計10機関）

筑波大学	東京大学	名古屋大学	京都大学	大阪大学
岡山大学	九州大学	熊本大学	奈良先端科学技術大学院大学	自然科学研究機構

○第1回

- 日 時:平成29年10月13日(金) 14:15～16:00
- 場 所:スタンダード会議室 虎ノ門ヒルズFRONT店 2階ホール(東京都港区虎ノ門1-22-14)
- 議題及び審議事項:
 - 運営委員会議長の選任(金子修 自然科学研究機構理事を選任)
 - 全体会議からの付託事項について
 - ・タスクフォース、ホームページ、シンポジウムの運用に係る詳細事項の決定

○第2回（メール開催）

- 日 時:平成30年2月2日(金)～2月9日(金)
- 議 題:
 - 研究大学コンソーシアム構成員の拡大に関する方針について
 - 研究大学コンソーシアムの英語表記及びロゴについて
 - 研究大学コンソーシアムのURA等の質保証に係る連絡協議会への暫定参加について 等

○第3回

- 日 時:平成30年3月15日(木) 15:00～17:00
- 場 所:スタンダード会議室 虎ノ門ヒルズFRONT店 3階ホール(東京都港区虎ノ門1-22-14)
- 議 題:
 - 平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画について
 - 研究大学コンソーシアムの構成機関について
 - リサーチ・アドミニストレーターの活動の強化に関する検討会について
 - 研究大学コンソーシアムの英語名、略称及びロゴについて
 - タスクフォースの名称変更について

研究大学コンソーシアム タスクフォース

(1) 高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するTF

目的:URAを含む高度専門人材・研究環境支援人材の活用について、補助金事業終了後も日本の研究現場への定着をはかるため、今後の、大学等への内在化、人材流動化、などについて、大学執行部の立場から、好事例やエビデンスの収集、必要な方策に関する情報共有・議論を行う。

(2) 研究力分析の課題に関するTF

目的:各大学の研究力の特徴を多角的な視点で把握するため、研究力分析指標を活用した研究IR、戦略立案に関して、各大学・研究機関における好事例ならびに必要な関連情報・エビデンスの収集と共有を目的とする。

(3) 国際情報発信に関するTF

目的:とくに国際情報発信に関して、これまで、東京大学・京都大学と自然科学研究機構の国際広報担当者が中心となり、AAASのEurekAlert!に共同加入するなど国際情報発信プラットフォームをつくり、連携して日本の研究大学における国際情報発信をもりたててきた。これを引き続きこのコンソーシアムの中でタスクフォースをたて、プラットフォームの運営を行っていくとともに、国際情報発信に関する好事例等の情報共有をすすめていく。

高度専門人材・研究環境支援人材 の活用に関するタスクフォース

座長

自然科学研究機構客員教授

山本 進一

研究大学コンソーシアム タスクフォース

高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース

これまでに、タスクフォースを2回、作業部会を計4回開催し、抽出した論点について、議論を行い、TFとしてとりまとめた。

- ・第一回タスクフォース(1月19日) @一橋大学一橋講堂
- ・第二回タスクフォース(10月12日) @スタンダード会議室虎ノ門SQUARE

作業部会

- ・第1回 4月11日(水) @自然科学研究機構
- ・第2回 4月24日(火) @情報・システム研究機構
- ・第3回 5月16日(水) @自然科学研究機構
- ・第4回 7月9日(月) @情報・システム研究機構

作業部会メンバー

金沢大学(座長)、筑波大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、東京農工大学、岡山大学、九州大学、早稲田大学、自然科学研究機構

研究大学コンソーシアム タスクフォース

高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース

とりまとめ 概要

- 論点1. 【第三の職種の定義づけ】URA等の名前・職域など、第3の職種としての定義づけと研究大学群での共通認識
- 論点2. 【内在化】内在化を進める上での財政的基盤の確保（間接経費の活用などを含む）及びポジションの確保（無期化、承継ポジションの活用、学長リーダーシップの在り方など）
- 論点3. 【流動化・質保証】人材の流動化を進める上での資質の認定、データベース整備と大学群での共通的な対応
- 論点4. 【多様性の認知】URAの異なる出身、大学における該当職の多様性、大学とは異なる研究機関等におけるURA（高度専門人材）の役割など
- 論点5. URA等人材の育成

URAに何を期待するか？

○URAは、既存の教員職、事務職の垣根を超え、大学全体の研究および研究に関連する活動を高めるために活躍する人材として期待される。よって、**教員職のような深く高度な専門性をもつとともに、事務職のような分野に偏らない知識と経験、大学等機関全体をみる俯瞰能力**が求められる。その両者を両立できる人材を目指す。



大学等における経験と実績

表： 研究大学コンソーシアム4職階基準案

職階 および 例 ※必ずしも呼び方を大学間で統一する必要はない		当該階級において目標とされる代表的な職務遂行の在り方	該当する教員職 (例)	該当する事務職 (例)
4	シニアURA	企画・計画立案から実行まで責任をもち、組織を統括し、実行することができる	教授	部長
3	チーフURA	与えられた職務について、独自に計画を立案し、下位職のURAを指導し、チームを率いて、遂行することができる	教授／准教授	部長／課長
2	アソシエイトURA	与えられた職務について、上位職と連携して、計画を立案し、遂行することができる	准教授／講師	課長／係長
1	アシスタントURA	与えられた職務について、上位職の指示を受け、遂行することができる	助教	係長／係員

※URAの職階については、それぞれの大学で呼び方まで統一することは難しいため、概ね4つの階級は以下の通りの内容であることを共通理解とし、それぞれの大学における位置づけと関連づけて定義しておくことが良い。

雇用財源の多様化

○URAは、大学全体の研究および研究に関連する活動を高めるために活躍する人材であり、大学における雇用・内在化に際しての財政基盤として、以下の3つが考えられる。

1. 運営費交付金等の自己財源の活用（教員枠・事務職枠の承継ポジションの活用等）
2. 大学全体の間接経費の運用とその活用（年俸制有期・無期雇用等）
3. 大型外部資金・プロジェクト資金の獲得（産学連携含む）とその活用（年俸制有期雇用等）

URAの質保証

○（URAの評価、質保証の観点）URAは、それぞれコアな専門性をもつことを基盤とし、大学等の研究活動を、研究者の視点および事務方の視点の双方からの横断的な機能をもって支え、大学等における研究活動および研究力向上にむけた取り組みを自発的にかつ積極的に推進する人材であってほしい。よって、URAの評価と質保証については、その強みとなる専門性の「深み」を評価しつつ、大学等での経験と実績、活動の幅の「広がり」も評価できるような形のものがよい。

URA等業務履歴の「統一」

URA 等業務履歴（共通）

氏 名	
生年月日	年 月 日生 男 ・ 女

学歴（学位等取得歴も含む）		
年月日	学校名・学科名等	備考

職歴			（URA 等に関連するものはチェック）
年月日	所属	職位	※RUC 4 職階基準案のうち相当するもの
			1・2・3・4
			1・2・3・4
			1・2・3・4
			1・2・3・4

URA 等 研修受講歴・URA 等認証歴		
年月日	研修・認証項目（スキル標準項目番号付記）	実施主体

その他の資格・免許	
年月日	項目

○URA 等職務歴（※従事した職務ごとに記載）

職務名	
実施した際の所属・職位 （※RUC 4 職階基準案のうち相当するもの）	（1・2・3・4）
関与した期間	年月日 ～ 年月日
※関連するスキル標準項目	
内容	

職務名	
実施した際の所属・職位 （※RUC 4 職階基準案のうち相当するもの）	（1・2・3・4）
関与した期間	年月日 ～ 年月日
※関連するスキル標準項目	
内容	

（業務ごとに、いくつでも）

○その他特記事項

年月日	特記事項
（例）20XX 年 Y 月 Z 日	ポスター発表「XXX に関する調査報告」RA 協議会年次大会
（例）20XX 年	論文発表「XXX に関する調査研究」Journal of XXX. Vol xx, page x-y
（例）20XX 年	XXX に関する資格取得（認証団体名）

URA等評価シート案

URA 等評価シート・テンプレート ※URA等の学内評価・年度評価など

氏名	評価者（１）氏名	評価者（２）氏名
所属・職位	評価者所属・職位	評価者所属・職位
※RUC４職階基準案のうち相当するもの： １・２・３・４		

○業務 ※業務項目ごとに、適宜行を追加してください。

（S：卓越した貢献をしている／成果をあげている A：想定以上の貢献をしている／成果をあげている B：想定した貢献をしている／成果をクリアしている C：貢献・成果が不足している）

業務内容 （目標設定） ※数値目標があればそれも含む	エ フ ォ ー ト 率	達 成 困 難 度	※スキル 標準	達成状況	評価期日	自 己 評 価	評価者（１） 所見	評価者 （１） 評価	評価者（２） 所見	評価者 （２） 評価
1.					年月日	S A B C		S・A・ B・C		S・A・ B・C
					年月日	S A B		S・A・ B・C		S・A・ B・C

研究力分析の課題 に関するタスクフォース

座長

大阪大学経営企画オフィス副オフィス長

菊田 隆

(代理説明: 自然科学研究機構特任教授 小泉 周)

○これまでに、タスクフォースを1回、ワーキンググループを のべ2回開催し、議論を行っている。

- ・ 第一回タスクフォース（1月19日） @一橋大学一橋講堂
- ・ ワーキンググループA（7月12日） @自然科学研究機構
- ・ ワーキンググループB（7月12日） @自然科学研究機構

○その他、勉強会など

<勉強会>

- ・ 「研究力分析の在り方と世界大学ランキングについて ～英国を参考に～」
1月11日 @一橋大学一橋講堂
- ・ 「研究力分析タスクフォース勉強会」 6月12日 @自然科学研究機構
- ・ 「研究力分析指標の背景と活用」 9月6日 @自然科学研究機構

<説明会>

- ・ 「研究力分析の課題に関するタスクフォース説明会」(文部科学省研究大学強化促進事業に係る行政事業レビューに関する説明) @自然科学研究機構

<協 力>

- ・ 「エルゼビア研究戦略セミナー2018」 5月31日 @ベルサール八重洲

●ワーキンググループA

研究力分析による大学等の戦略作りにおける好事例の共有について

(参画機関)

東京工業大学、電気通信大学、新潟大学、信州大学、名古屋工業大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学、奈良先端科学技術大学院大学、自然科学研究機構、情報・システム研究機構

⇒ **本日のシンポジウム**で一部好事例と推薦のあった大学より**好事例の共有**

●ワーキンググループB

行政機関において研究大学の評価に用いられる指標とその運用の検証について

(参画機関)

北海道大学、東北大学、東京農工大学、名古屋大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、九州工業大学、熊本大学、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構

⇒ **行政事業レビューにおけるEBPM(ロジックモデル)など、文科省との意見交換など**

●ワーキンググループC

人文社会科学系の研究力分析指標について

(参画機関)

京都大学、大阪大学、広島大学、九州大学、熊本大学、慶應義塾大学、自然科学研究機構

⇒ 既存のグループ等との意見交換・情報交換を検討

国際情報発信 に関するタスクフォース

座長

京都大学国際広報室長
今羽右左 デイヴィッド 甫

○昨年12月以降、2回の会合を開催するとともに、メール等により検討・議論を行っている。

- ・ EurekaAlert! User meeting（2月17日）@AAAS年次総会会場（Austin, TX, USA）
- ・ ワークショップ（4月24日）@東京大学医学部図書館「大学のブランディング戦略とReputation向上の取り組み」

○その他、勉強会など

＜共催イベント＞

- ・ 「Japan SciCom Forum 2018」 4月20日(金) @東京工業大学地球生命研究所

参加者：約100名

概要：科学や研究成果を題材とした広報や情報発信に特有の課題に係る基調講演、パネルディスカッション及びワークショップを開催。

※来年度も開催予定

AAASによる英文プレスリリース作成支援サービス(NRAP)の検討



News Release Assistance Program

EurekAlert! is a non-profit, global science news consortium operated by the American Association for the Advancement of Science (AAAS). It disseminates science news to reporters and the public on behalf of scientific organizations worldwide. The News Release Assistance Program (NRAP) is designed to help Public Information Officers (PIOs) with limited resources or a small number of projects to pursue international media coverage through clear, concise and accurate news releases written by experienced science writers.

のべ10機関による検討が行われ、作成されたものは、英文プレスリリースとして配信された。

⇒ **NRAPのRUCとしてのディスカウント契約**をAAASと行い、必要とする大学等の**RUC参画機関**で活用していく予定。